

## 復興支援フォーラムニュース No.3

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html> )

<事務連絡先 今野順夫([tkonno67@gmail.com](mailto:tkonno67@gmail.com)) 中井勝己(024-548-8313)>  
=====

12月22日午後6時半から、福島市内AOZ(アオウゼ)において、第2回「ふくしま復興支援フォーラム」を開催しました。真木實彦氏から、「原発災害と地域社会」をテーマとした報告が行われました(報告のレジュメは、復興支援フォーラムニュースのNo.2に掲載しています。)。連休の前日という大変忙しい日でしたが、35名の参加者があり、活発な討論が行われました。

以下は、参加者からいただいた、文書によるご意見の一部です。

### ☆ 第2回フォーラム(12.22)参加者からのご意見

○積算線量だけで線引きし、住民が分断されようとしている。線量の高い所はごく一部、50~20mSvがほとんどです。このままでは、村は分裂の危機です。どう対応すれば良いのか、それに伴う補償・賠償はどうなるのか? (Z.I)

○私が職業としている農業も、長い間、農業者同士の分散化で成り立っている。一方で、自然災害や豊作・不作、さらに病気発生の中にあって、正常な生産ができた農家が所得向上に少しなるが、多くの利益は関わる商社に行く。そこに輸入など人災が加わって、何代続いても貧困から抜け出せない農業者が多い。自給率の低い、食糧の安心・安全もない~見通しもない国となっています。この人災の原発事故は、職業、生産、所得などでなく、人として最低限の生活の家族をバラバラにし、多くの人に体内被曝させ、地域の自治もコミュニティーも全て壊したのです。まして、東京電力、政府、政治、マスコミ、学会なども反省したり、前向きに進めているポーズは見せるが、真実のこととしない。人間の生命、基本的人権、生存権を、今こそオール日本、オール福島としなければと考えさせられました。避難させられた体内被曝者として、自立、健康、復興できるよう歩んで参ります。(H.S)

○飯舘村は、12月初めから大師堂400㎡、役場の除染作業を行っていますが、その結果により、順次、村への帰村させようとしていますが、戻った時、健康問題、保障問題がどの様になっていくのか、・・・内部被曝の検査も終わっていない状態です。戻っても、人の住んでいられない所では、商売無理です。どの様な方向性に向かっていくのか、除染の効果は、飯舘村・・・。小4の孫の健康問題、食べ物・知識がないので、月日が経つにつれて、マスク不使用とかが、だんだん普通の生活に(以前)もどりつつありそうな感じになるのか、怖いです。学校での知識を身につける事が大事かと思えます。(M.S)

○3/11以前の環境へ戻すためには、まず現在の汚染状況を、正確かつ詳細に把握すべきだと思います。大地の汚染状況の詳細な地図を作成し、住民に周知させるべきではないでしょうか。汚染の状況に対応した除染が必要であり、住民が納得できる対策を行った方がよいと思います。(K.S)

○思いを語る、意見をのべあう場が大事だと、あらためて感じました。森の話と海の話を知りたいです。(S.N)

○非常に整理された講義でした。フォーラムの魅力が、これから一層、出てくる予感がします。(O.S)

○避難した人たちが、帰る・帰らない。新しい生活の選択は、世代や仕事等により違う。小中学生の子どもがいて、他の地域で2、3年もすれば、そこが定住地となり、戻ってくることも(また新たな生活)困難となる。除染が、(長くても)この1年でできるかどうか勝負、わかれ道となるのではないのでしょうか?(K.S)

○福島医大との連携はありませんか?/国から県は、「兆」「億」のお金が来てる(来る)ようですが、実感がわきません。お金の流れがわかりません。(K.I)

○先ず除染、そのための仮置場、「東電と国の責任で、早急に行うこと」で声を上げよう。(K.G)

○頑強にふくしまが主張していくべきものを見きわめる、見つける事が重要と思います。その意味で、市民レベルのフォーラムが、ますます重要と思います。(H.K)

○課題はたくさんあるが、整理していくことが、まず大事と思う。放射能問題は、意見が分かれる(対応などについて)ことがたくさんあるが、だからこそ、上から(政府・行政)の計画の押し付けでなく、その地域の住民の合意・発案が、とにかく大事だと感じている。(H.S)

○(議論で出た意見に対して)新しい土地で、住宅を購入し、生活を始められる方もいると思いますが、社会において格差がある限り、その格差が避難先でも引き継がれるだけで、社会的弱者への対応は残ると思います。よく双葉郡から来ている医師の方が病院を始めたとか、他にも新たに事業を始めた方の話とかを聞きますが、元々収入の高い層の方は、双葉郡にもいるはずで、そういう方たちは何とかなるのかもしれない。しかし、身体が不自由な方、以前から収入が安定しない方は、新たな土地でも苦労が続きます。当面の賠償金だけで、新しい生活を始めるというのは、困難が伴うのではないのでしょうか。(K.T)

○福島の復興をになうのは、放射能汚染地でも作物の放射線がすべて基準値以下にできたEM農家だと思います。土地の線量を劇的に下げた例も多くあり、本当に効果的な除染も可能かと思います。さらにEM-X(医療用EM)やEM生活(掃除、洗濯、料理に活用)を取り入れれば、家庭で安価に被曝対策ができます。こうしたことをすでに日常的に行っている地域では、排水が河川を浄化し、生ゴミは効果的に堆肥化されるため、リサイクル社会となり、雇用を生んで、町おこしにもつながっています。(Y.I)

○真木先生の話で、全体の姿を整理できました。ただ、数々の学習会が行われている以外に、当フォーラムはどのような役割を果たすべきか考えています。若い人がみられるのは心強い。→面白そうです。(I.K)

○前回と同じことを繰り返します。3. 11に向けて、何か取り組むべき。(これからの議論の一定成果をとりまとめるような形で)(H.S)

★当日の様子は、福島民友新聞(12月25日付)に掲載され、紹介されています。

★会場カンパ(12月22日)は、合計5011円でした。ありがとうございました。

★第3回「ふくしま復興支援フォーラム」は、1月11日(水)18:30~AOZで。

報告:根本敬氏(福島県農民連事務局長)

「人間復興に向けた損害賠償運動の意義~農業を中心として~」